



地域医療連携室だより

2017年度 第4号 11月

点滴治療による副作用は一人で悩まないで相談を!!

～外来化学療法室～

外来化学療法室は、平成21年5月に稼働しました。外科・整形外科・泌尿器科の外来患者さんが点滴治療する場所で、稼働件数は年間500件前後です。

外来化学療法室では、治療中の患者さんが治療前と変わらない日常生活を送れるように、副作用の発現時期を考慮しながら症状の有無や程度を観察・情報収集し、その患者さんに適したケアを一緒に考えています。

治療により、「食べ物の味が変わった」患者さんへは嗜好にあった食べ物を提案します。「脱毛があって辛い」に対して、辛さを軽減させるためウイッグ・ニット帽の紹介や頭



フローズングローブ

皮ケアの説明、「爪の変形で痛みがある」患者さんには手足の冷罨法（れいあんぽう）としてフローズングローブの装着と生活しやすい指先の保護を一緒に考えます。

副作用は治療薬剤により様々な症状があり、症状を緩和させながら日常生活を送る患者さんの苦痛は計り知れません。

患者さん一人ひとりの症状の違いを学ばせてもらいながら、いつも患者さんの苦痛や気がかりなことに対して一緒に考え支援していきます。

外来化学療法室：松山まき子（がん化学療法看護認定看護師）

船越純子・工藤幸子

化学治療室について Q&A

Q. 事前の相談や見学はできますか？

A. はい。治療方針が決まり次第、ご案内できます。

Q. 治療費についての相談はできますか？

A. 高額療養費制度や傷病手当金など、地域医療連携室や医事のスタッフとも連携しながら、患者様に合った個別の社会保障制度をご紹介しております。

Q. 治療中の家族の付き添いはできますか？

A. はい。患者様の不安の軽減のため、「傍で見守りたい」というご家族には付き添っていただいております。

新任医師紹介

初めての能代で頑張ります！

～整形外科・荒木亮先生～

10月より青森県の弘前大学病院より赴任しました、荒木亮と申します。今年3月に初期臨床研修を修了し、4月から整形外科医1年目として日々修行しています。まだ1カ月ちょっとですが今までとは比べ物にならないほどの経験を積ませて頂いており、一からご指導頂いている大塚先生、田中先生には感謝の言葉しかありません。またコメディカルの方々の手助けによって何とか日々の業務をこなしている状況です。初めて訪れる能代という土地にわずかながら不安はありましたが、すでに環境には慣れて快適な生活を送らせて頂いております。先日は少し足を伸ばして男鹿水族館に行ってきました。白クマの豪太君を眺め、夜は柳町でアルコールを補充したことにより、まだまだ頑張りが足りないことに気づかされました。日々精進して参りたいと思います。(荒木亮)



研修医紹介

東北の最果ての地で極上の温かさ体験

～医師、スタッフとの交流で勉強、臨床研修医・小島原陽介先生～

こんにちは、JCHO 東京蒲田医療センターから来ました、初期研修医2年目の小島原陽介です。地域医療ということで、ここ東北の最果て能代まで来ています。羽田から飛行機に乗り、大館能代空港に近づいたとき、あまりに壮大な原生林に不安を感じましたが、研修が始まり、まだ医師として至らない私に、科を超えて救いの手を差し伸べて下さる先生方、外来・病棟のスタッフの皆さんとの交流を通じて、この東北の最果ての地で極上の温かさを感じさせていただいている所存です。言い回しがうざいなーと思われる方もいらっしゃるとは思いますが、その方々も含めて本当に感謝しています。研修期間は2ヶ月と短いですが、他の病院ではなかなか経験させてもらうことのできないこの貴重な時間を、今後の医師人生で活かせるように日々努力していきたいと思いますので、みなさん何卒よろしくお願いします。(小島原陽介)



老人保健施設コーナー

内閣総理大臣からお祝い状と記念品贈呈される

～おふたりの100歳を記念して～

9月22日附属老健に入所されている伊勢次郎さん、布施カツエさんのおふたりが100歳を迎えた内閣総理大臣からお祝い状と記念品の贈呈がありました（山本福祉事務所）。当日はおふたりともご家族に囲まれ、それぞれ記念撮影を行うなど終始和やかな雰囲気のなかでのお祝いとなりました。おふたりとも今後とも末永く、お幸せにお過ごしください。



同じ年にはジョン・F・ケネディがいます。

リニューアルした当施設

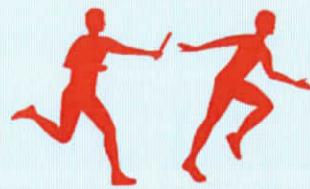
～より多くの利用者受け入れのため改修工事完了～

当老健施設通所リハビリ室（デイケア）では、10月からデイルームの拡張、トイレの改修工事を行いました。工事完了後は以前よりもたくさんの利用者さんの受け入れができるようになります。リニューアルした当老健施設を今後ともよろしくお願ひいたします。



*新規利用者10名程、随時募集しております

職員ペンリレー



～第2回～

がんになった親を持つ子どもをサポート

～CLIMB®プログラムのファシリテーター資格取得～

人工腎センター看護師の本間陵太です。今年の4月にヘルニアを発症したことで皆様にはご迷惑をおかけしました。ヘルニアを患つたことでどうしようかと悩んだ時期もありましたが、皆様のご支援により今も看護師として働くことができております。ありがとうございます。今は第二の看護師人生のスタートという気持ちで頑張っております。学会や研修にも積極的に参加し、最近ではCLIMB®プログラムのファシリテーターの資格を取得してきました。CLIMB®プログラムはがんになった親を持つ子どものためのサポートグループです。学童期の子どもを対象としており6回のセッションを通して感情の表出、対処の仕方を学び、同じ境遇の子どもとつながることを目的としています。CLIMB®プログラムを通してこれからも地域に貢献できるよう頑張ります。



独立行政法人地域医療機能推進機構
秋田病院
地域医療連携室
秋田県能代市緑町5-22
電話：0185-52-3271（代表）
FAX：0185-54-7892（代表）
FAX：0185-54-1266（連携室直通）

編集後記

- 三浦：今年の冬到来は早く驚いています。ここで一句！「黄金のイチョウ並木の冬景色」
- 高松：11月から新しく配属になりました看護師の高松です。早く慣れるようにがんばります。
- 安藤：「世界一のクリスマスツリー」神戸に見に行きたいなあ。
- 三熊：もう雪が降りました。スキーチャンスや雪の観光地にだけ降ってほしいです・・・。
- 袴田：仕事は高姿勢にならず、低姿勢にならず、正姿勢で臨みたいです。